

タイトル「**2022年度危機管理学部(公開)**」、フォルダ「**(共通)**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT1219		
科目名	アカデミック・スキルズ		
担当教員	宮脇 健,古谷 洋一		
対象学年	1年	開講学期	後期
曜日・時限	金 2		
講義室	1314	単位区分	必
授業形態	アカデミック・スキル科目	単位数	2
科目大分類	総合教育科目		
科目中分類	総合基礎		
科目小分類	リテラシー		
科目の位置付け（開発能力）	■DPコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP2-A〔日本の精神文化を理解し多様な価値を受容する姿勢〕地球的視点で物事を多面的に捉え、異文化との交流の重要性を認識するとともに、異文化との交流を積極的かつ多面的に行い、相互理解を促進し互恵関係を構築することができる。 DP2-B〔自己の特性を理解し社会に貢献しようとする姿勢〕自己の存在意義を知り、自らを高め続けようと努力することができる。 DP4-I〔理解力・分析力〕文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 DP5-J〔創造的挑戦力・達成力〕コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを、自らの思考及び行動のパターンとするとともに、既存のアイデアを革新的かつ創造的に統合し、リスクをとりながら、結果に結び付けることができる。 DP7-L〔協同力・牽引力〕集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。 DP8-M〔省察力〕知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状況に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■CRコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（CR）との関連 A2（10%）異文化適応 B1（10%）自己啓発 I1（20%）理解と分析と読解 J1（20%）創造的思考 L1（30%）チームワーク M1（10%）統合的・応用的学修		
教員の実務経験	—		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 2. 進期期 ～ 3. 発展期		
科目概要・キーワード	『自主創造の基礎』で修得した「大学での学び」に関する認識や技能を更に発展させ、学部独自のカリキュラムや専門的学修に適応するためアカデミック・スキルを修得します。レポート作成技術やインターネット情報の参照や発信に関するマナー、2年次以降の領域・キャリア・ゼミ選択に関するワーク、危機管理に関するテーマを題材としたディスカッション等を通じて、自身の将来のキャリアや社会とのつながりに対する認識を高めるとともに、2年次での専門科目に対する自主性・創造性・協調性を高めることを目的としています。授業形態は演習と講義形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れます。 ■キーワード：アカデミック・スキル、カリキュラム、キャリア、チームワーク		

授業の趣旨	■副題 日本大学危機管理学部で学ぶためのアカデミック・スキルを獲得します。 ■授業の目的 『自主創造の基礎』で身につけたスキルを発展させ、危機管理学の専門領域を学ぶためのアカデミック・スキルを獲得することを目標としています。将来のキャリアプランに関する意識づけを行うとともに、情報の収集・発信やレポート作成、ディスカッションなど大学生に求められるスキルを修得します。また、2年次から始まる領域・キャリアとゼミの選択を適切に行うため多角的なワーク（講義、グループワーク、個人面談）を通じて、キャリアデザインに基づく大学での学修計画を推敲していきます。 ■授業のポイント 本学部で学ぶ意義を理解し、自ら計画的に学ぶマインドを醸成します。また、2年次以降の領域・キャリア選択や演習・ゼミナール等の選択ができるようキャリア教育の側面を重視していきます。						
総合到達目標	■危機管理学部の学生として身に付けるべき学修姿勢や修得すべきアカデミック・スキルを身に付ける ・将来のキャリアプランについて説明することができる（第1、8～10回） ・学部の成績評価方法について説明することができる（第2回） ・キャリアプランに基づいて2年次以降の領域・キャリア・演習科目選択を行うことができる（第1、8～10回） ■多様な存在を認め、それぞれの価値観を尊重しながら他者と関わり合うことで、自身の立ち位置を相対的に理解する ・自分の考えを他者にわかりやすく伝えることができる（第3、9、12～14回） ・他者の意見に傾聴することができる（第3、9、12～14回） ・多様な存在や価値観を受容し、尊重しながら、協働することができる（第3、9、12～14回） ・チームの中でリーダーシップとフォロワーシップを発揮することができる（第3、9、12～14回） ■自ら設定した課題について論理的かつ批判的に検討を行いながら、自身の考えを伝える力を身に付ける ・グループまたは個人でテーマを設定することができる（第3～6、9、12～14回） ・グループまたは個人でテーマに関わる情報収集を行うことができる（第2～6、9、12～14回） ・他者の意見を尊重しながら多角的かつ批判的に自身の考えを見直す伝えることができる（第3、9、12～14回） ・ワークでの検討結果を論理的に構成し、他者へ説明することができる（第3、9、12～14回） ・解決方法を見出し、個人や協働で検討し、提案することができる（第2～3、9、12～14回）						
成績評価方法	■授業参加度15回（80％） 適用ルーブリック: A2、B1、I1、J1、L1、M1 （評価の観点）各授業回で実施する「振り返りシート」14回、およびグループワーク・面談への参加度について、各評価基準用のルーブリックに基づき評価します。 （フィードバックの方法）各提出物については次回授業時に全体講評を行うとともに、必要に応じて学期末までに個別にフィードバックを行います。 ■レポート評価1回（20％） 適用ルーブリック: B1、I1、J1、K1、M1 （評価の観点）レポートの内容と形式について、ルーブリックに基づき評価します。 （フィードバックの方法）授業内で全体講評を行うとともに、修正が必要な場合など必要に応じて個別にフィードバックを行います。						
履修条件	必修のため、特にありません。						
履修上の注意点	少人数の演習科目のため、毎回出席して積極的に授業参加することが求められます。遅刻・欠席はグループ学修などの授業進行や他の受講生の学修の妨げにもなりますので慎重とともに、やむを得ず遅刻・欠席する場合は必ず事前に担当教員に連絡するようにしてください。連絡方法など詳細は初回ガイダンスで説明があります。						
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td> ①授業テーマ スタートアップ ②授業概要 授業の進め方や評価などのガイダンスと将来のキャリアデザインに向けた説明により、今後の自分のキャリアを見据えた学修計画をつくれるようになる（A2、B1、I1、J1、L1、M1）。 ③予習(120分) 学部要覧と後学期の時間割を熟読し、後学期の学修計画を作成する。前学期の成績評価表を再度確認し、後学期の学修への改善点を整理してくる。 ④復習(120分) 授業で作成した成果物を見直し、学修計画全体として整合性についても確認し、適宜修正整る。また、この学修計画に沿って各履修科目で自分が何を学ぶべきかについて明確にした上で各科目のシラバスやガイダンス内容を再度確認する。 </td></tr> <tr> <td>2</td><td> ①授業テーマ 危機管理学部を知る ②授業概要 『三軒茶屋ラーニングイニシアティブ・マニュアル (SLIM)』に基づく本学部の成績評価方法について説明できる（A2、B1、I1、J1、L1、M1）。また各科目の位 </td></tr> </tbody> </table>	回	内容	1	①授業テーマ スタートアップ ②授業概要 授業の進め方や評価などのガイダンスと将来のキャリアデザインに向けた説明により、今後の自分のキャリアを見据えた学修計画をつくれるようになる（A2、B1、I1、J1、L1、M1）。 ③予習(120分) 学部要覧と後学期の時間割を熟読し、後学期の学修計画を作成する。前学期の成績評価表を再度確認し、後学期の学修への改善点を整理してくる。 ④復習(120分) 授業で作成した成果物を見直し、学修計画全体として整合性についても確認し、適宜修正整る。また、この学修計画に沿って各履修科目で自分が何を学ぶべきかについて明確にした上で各科目のシラバスやガイダンス内容を再度確認する。	2	①授業テーマ 危機管理学部を知る ②授業概要 『三軒茶屋ラーニングイニシアティブ・マニュアル (SLIM)』に基づく本学部の成績評価方法について説明できる（A2、B1、I1、J1、L1、M1）。また各科目の位
回	内容						
1	①授業テーマ スタートアップ ②授業概要 授業の進め方や評価などのガイダンスと将来のキャリアデザインに向けた説明により、今後の自分のキャリアを見据えた学修計画をつくれるようになる（A2、B1、I1、J1、L1、M1）。 ③予習(120分) 学部要覧と後学期の時間割を熟読し、後学期の学修計画を作成する。前学期の成績評価表を再度確認し、後学期の学修への改善点を整理してくる。 ④復習(120分) 授業で作成した成果物を見直し、学修計画全体として整合性についても確認し、適宜修正整る。また、この学修計画に沿って各履修科目で自分が何を学ぶべきかについて明確にした上で各科目のシラバスやガイダンス内容を再度確認する。						
2	①授業テーマ 危機管理学部を知る ②授業概要 『三軒茶屋ラーニングイニシアティブ・マニュアル (SLIM)』に基づく本学部の成績評価方法について説明できる（A2、B1、I1、J1、L1、M1）。また各科目の位						

	置づけや成績評価方法についてシラバスから読解することができる (A2、B1、I1、J1、L1、M1)。 ③予習(120分) SLIMを精読し、不明な点は授業で質問できるようメモをとる。 ④復習(120分) 後学期の全履修科目のシラバスを見直し、カリキュラム全体の中での位置づけや高い成績評価を得るため必要な学修・課題について確認する。
3	①授業テーマ コミュニケーションスキルの錬成 ②授業概要 大学生に求められるネチケットを理解し、他者との意見交換を通じて自分の見解を述べるができる (A2、B1、I1、J1、K2)。 ③予習(120分) ネチケットについて下調べを行う。SNSに起因するトラブルを調べ、自身の考えや解決策について考えてメモする。 ④復習(120分) 授業内容に基づき、卒業後のキャリアについて、あらためてインターネット等で情報を収集し、理解を深める。特に、自身の興味・関心のある業種・業界について掘り下げ、より具体的な目標を定める。
4	①授業テーマ レポート作成① ②授業概要 大学で課されるレポートの要件と執筆方法・手順について説明できるようになる (B1、I1)。レポートを作成する上で必要な資料にアクセスし、適切な引用を行いながら本文を作成することができる (I1、M1)。 ③予習(120分) 事前に配布するレポート作成マニュアルを精読する。 ④復習(120分) 授業時間内に調べきれなかった資料を図書館等で改めて検索・収集して内容を確認し、その調査内容を必要に応じてレポートに反映する。
5	①授業テーマ レポート作成② ②授業概要 収集した資料に基づいてレポート本論の構成をつくることができる (I1、J1、M1)。また、レポートで自身が主張したい結論とその根拠を論理的に説明できる (I1、J1、M1)。 ③予習(120分) レポートに活用できる資料を収集し、重要な箇所はマーカをひくなど、授業時に参照しやすいように準備する。 ④復習(120分) 授業で作成したレポートのアウトラインを再度検証する。自身の主張の論拠あるいは反証となる資料を収集する。
6	①授業テーマ レポート作成③ ②授業概要 レポート作成における書式の重要性について認識する (A2、I1)。自身が作成したレポートについて、指定された書式通りになっているかを確認し、レポートを完成させる (A2、I1、J1、M1)。 ③予習(120分) 教科書P36-37を精読する。自身がここまで作成したレポートを読み直し、誤字脱字や不備がないか確認する。 ④復習(120分) 他の科目で提示されているレポート課題について、書式の指定の有無を確認する。指定がある場合は提出前に書式の確認ができるようメモをとっておく。
7	①授業テーマ サイコロジカル・ファーストエイド (PFA) の基礎／個人面談 ②授業概要 危機管理の専門的コミュニケーション技法であるPFAの意義について説明できるとともに、基本的な技能について振舞うことができる (A2、B1、L1)。また、担任との個人面談を通じて自身のこれまでの学修プロセスと評価を振り返り、学期後半の学修計画を調整する (A2、B1)。 ③予習(120分) 今期の各履修科目について、これまでの出席・参加状況や学修内容、課題提出状況について説明できるよう整理する。 ④復習(120分) 授業で案内された資料にアクセスし一読する。学期後半の学修計画について再検討する。
8	①授業テーマ 危機管理の領域・キャリアの概要／個人面談 ②授業概要 2年次以降のカリキュラム、オールハザードアプローチに基づく4領域とキャリア選択について認識するとともに、自身の卒業後のキャリアプランを踏まえて適切な選択が行うために必要な準備を認識できる (B1、I1)。また、担任との個人面談を通じて自身のこれまでの学修プロセスと評価を振り返り、学期後半の学修計画を調整する (A2、B1)。 ③予習(120分) 『学部要覧』を精読する。 ④復習(120分) 2年次以降に履修したい専門科目について、『学部要覧』と『シラバス』を参照しながらリストアップする。
9	①授業テーマ 領域・キャリアに関するグループワーク ②授業概要 志望する領域・キャリアで2年次以降にどのような学修を行う必要があるかについて、他者と協働で情報を収集しまとめることができる (A2、B1、I1、J1、L1、M1)。ワークの成果を他者にわかりやすく伝えることができる (L1、K2)。 ③予習(120分) 第8回の復習内容について、他者に理由を添えてわかりやすく説明できるようメモを作成する。 ④復習(120分) 他班の報告の中で興味をもった科目について、『シラバス』を参照して

	学修内容を確認する。それを踏まえて第8回の復習で作成したリストをアップデートする。
10	①授業テーマ 領域・キャリア・演習科目の選択 ②授業概要 2年次以降の領域とキャリア、演習・ゼミナール科目の選択手続きを認識する (A2、B1、I1、M1)。説明会等を通じて必要な情報を収集した上で意思決定を行い、期限までに希望を届け出る (M1)。 ③予習(120分) 学部HPや『シラバス』等を通じて本学部の専任教員の研究テーマや指導方針を確認する。 ④復習(120分) 授業配布資料を再度精読し、選択の手順・期限について再確認する。
11	①授業テーマ 危機管理とキャリア① ②授業概要 危機管理とキャリアに関する講演を聴講してその内容を想起できるようになるとともに、危機管理に関する職業に就くために必要なマインドやスキルについて論理的に説明できるようになる (A2、B1、I1、M1)。 ③予習(120分) 講演テーマに関するキーワードについて下調べを行う。 ④復習(120分) 講演内容に関して深く学修したい点、他者と議論したい点について整理する。
12	①授業テーマ 危機管理とキャリア② ②授業概要 第11回の講演を踏まえて、危機管理に関する職業に就くために必要なマインドやスキルについて学生同士でディスカッションを行い、その成果を他者にわかりやすく報告することができる (A2、B1、I1、J1、L1、M1)。 ③予習(120分) 第11回の復習内容を他者に伝えられるよう自分の考えを再度整理し、メモを作成する。 ④復習(120分) ディスカッションやその報告のメモをまとめ直す。ディスカッションを円滑に進めることに寄与した自他の振舞いを想起しメモにまとめる。
13	①授業テーマ 危機管理とチームワーク① ②授業概要 危機管理学に関するテーマについて、学部学生同士で多様な考えや個性を認めながら協働ワークを行うことができる (A2、B1、I1、J1、L1、K2、M1)。 ③予習(120分) 事前の案内・指示に沿って必要な準備を行う。 ④復習(120分) 授業での交流内容を振り返り、当学部で自分が学修する意義を整理する。指示された課題に沿って振り返りシートを作成して提出する。
14	①授業テーマ 危機管理とチームワーク② ②授業概要 危機管理学に関するテーマについて、学部学生同士で多様な考えや個性を認めながら協働ワークを行うことができる (A2、B1、I1、J1、L1、K2、M1)。 ③予習(120分) 事前の案内・指示に沿って必要な準備を行う。 ④復習(120分) 授業での交流内容を振り返り、当学部で自分が学修する意義を整理する。指示された課題に沿って振り返りシートを作成して提出する。
15	①授業テーマ 総括・振り返り ②授業概要 本科目における自身の学びを客観的に振り返り、各到達目標についての自己評価を行うことができる (B1、M1)。本科目における達成状況を参照しながら、後学期に向けた具体的な目標を設定することができる (B1、M1)。なお、ここまでの振り返りシート等の提出物について、教員が全体講評によりフィードバックを行います。 ③予習(120分) 当科目の授業資料やノートを再度全体的に読み直し、科目を通じて自分が修得した知識・技能・態度について説明できるよう準備する。また、到達度が充分でないと感じる部分がある場合は、再度教科書や授業資料をまとめ直し、不明な点を質問できるようにする。 ④復習(120分) 授業総括および提出物のフィードバック等を振り返り、到達度に関する自分の考えを再検証する。また「学修ポートフォリオ」に基づいて当科目や他の履修科目の学修を評価する。
関連科目	自主創造の基礎 (RMGT 1218)
教科書	『ミライヲツクル Learning Guide』(日本大学FD推進センター, 2020) https://www.nihon-u.ac.jp/fd-center/fdguidebook/learningguide/
参考書・参考URL	『日本大学学部要覧2022』、『三軒茶屋ラーニング・イニシアティブ・マニュアル (SLIM)』、そのほか各授業回にて必要に応じて案内します。
連絡先・オフィスアワー	第1回授業で案内します。
研究比率	—

